

編 集 後 記

「今年の漢字」に「税」が決まりましたが、2位には「熱」が選ばれました。

国内ではデング熱、国際的にはエボラ出血熱が話題になり、そのインパクトは大きなものでした。米誌タイムは恒例の person of the year に、エボラ出血熱の治療にあたる「ファイターズ（闘う人たち）」を選びました。国境なき医師団を含め世界中の人々が、現地の医療スタッフ、救急車の運転手、遺体の埋葬チームなどと一緒にエボラ出血熱と闘い、その「勇気と慈悲に基づく根気強い行動」が選出理由です。残念ながら、エボラウイルスは、その発見から40年近くたちながら、ワクチンや治療薬の開発が遅れています。製薬会社の利潤につながりにくい熱帯病であること、生物兵器への転用の恐れから研究成果が機密にされやすいことなども関係しているとのことです。一方で、セログループ1（ジェノタイプ1）のC型慢性肝炎にインターフェロンを用いない経口薬2剤（ダクラタスビル+アスナプレビル）の治療が認可されました。高い治癒率と少ない副作用から、その有用性は高く評価されており、国内に130万人いるC型肝炎患者の福音となるものです。今後も優れた新薬が上市される予定で、近い将来、内服薬によりC型肝炎のほぼ全症例が治癒するものと推測されています。そして問題は、薬の効果でなく、その財源（affordability）と言われています。日本人の悪性腫瘍は、胃癌、肝癌、子宮癌、成人T細胞白血病（ATL）など、感染症によるものが多いことが知られています。Helicobacter pylori 感染率の低下および除菌治療により胃癌が減少しているように、C型肝炎関連の肝癌も激減するものと思われます。若い研究者の関心も、新たなテーマをもとめて、別の分野に変わっていくかもしれません。

三菱京都病院医学総合雑誌第21巻をお届けします。本巻では、原著3編、症例報告5編、活動報告2編、エッセイ1編が集まりました。雑誌の作成・投稿にあたられた皆さま、誠にご苦労さまでした。次巻も皆さまの投稿をお待ちします。

水野 雅博

編集委員長	水野雅博
同委員	青柳智子
(50音順)	井上智奈美
	小野典子
	岡村加奈
	篠原智誉
	橋元誠